

UBE Group Thailand工場見学会報告



14ACC(第14回アジア化学会議)とは

「ACCって何?」。「これは、昨年知り合いの大学関係者に「今度タイのバンコクで開催されるACCに参加しますか?」と質問した際の回答である」。

14ACCについては、本号で鈴木先生より詳細な説明がなされているので、ここでの説明は割愛するが、今回、多くの日本人研究者にACCの存在、FACSの活動内容が周知できたことは、FACSのSub-Project “Asian Network of Metallic Chemistry (ANMC)”のDirectorである筆者にとっても望外の喜びであった。

いざ、ラヨンへ!

14ACCが終了した翌日の9月9日に、日本の大学関係者15名が参加したUBE Group Thailand工場見学会が幕を開けた。

この工場見学会は、今年が「世界化学年2011」であることを記念して、本会千葉泰久副会長(宇部興産相談役)、川島信之常務理事の尽力により企画されたものである。

UBE Group Thailandは、バンコクから南東約180kmの距離にある海岸の町ラヨンにある。手配していただいた大型バスに乗って3時間も行くと、長閑な田園風景の中に、近代的な建物が目に飛び込んできた。UBE Technical Center (Asia) (通称UTCA)である。ウェルカムボードにすべての参加者全員分の所属大学のエンブレムが印刷してあったことには大いに感動した。

まず、Technical Advisorの西田洋一氏



写真1 全体写真

からUBE Group Thailandの概要を説明いただき、昼食後、3台のマイクロバスに分乗し、2つの工場を見学した。最初は、UBE Chemicals (Asia) Public Company Limited (通称UCHA)内のカプロラクタム及びナイロン6製造プラントである。ここでは、1996年以来、年間11万トンのカプロラクタムと46万トンの硫酸アンモニウムを製造するとともに、年間7.5万トンのナイロン6を生産している。

次に訪問したのは、「年間7.2万トンを生産する」ポリブタジエンのプラントで、製品は主に大手タイヤメーカーに出荷されている。タイに進出した1996年から年々着実に生産規模を拡大しており、UBE Groupのバイタリティーとバイオニア精神には、心より敬意を表する。

その後、再びUTCAに戻り、隣接するi-PlazaにてUBEGroupの会社概要や展示物の見学を行った。最先端技術や製品が惜しみなく展示され、同社の懐の深さが十二分に伝わった。その後、UBE Groupの技術及びR&Dの紹介を受け、多くの諸問題について、2時間にわたって活発な議論が参加者の間でなされた。夕刻には懇親会が開催され、UBE Group ThailandのCharunya社長(宇部興産常



写真2 宇部興産社史を説明するAthapol氏(京都大学PhD.取得)

務執行役員)による歓迎の挨拶と素晴らしいタイ料理に舌鼓を打ち、1日目を終わった。

2日目は、バスでマプタプット工業団地に移動し、そこで責任者であるPeravatana氏から工業団地内のインフラや監視・管理システムに関する説明を受けた後、施設内を見学した。

おわりに

今回、タイの化学工場を見学するという通常できない体験をさせていただいた。我々の訪問を心から歓迎していただき、細かな心遣いで準備いただいたUBE Group Thailandの関係者にこの場を借りて感謝申し上げたい。日本企業が海外に進出する際の苦労話や現地の人々と共存していくことの重要性など多くのことを学ぶことができた。

滞在中に出会ったタイの人々の笑顔とコーヒーブレイクで食したこれまでで一番美味しいと感じたドリアンの味が忘れられない。

(Director of ANMC 西原康師
(岡山大学大学院自然科学研究科))

©2011 The Chemical Society of Japan